

4 教室の物を知ろう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・手におはじきを隠し、「ある？ない？」と聞く。 ・「鉛筆ある？」「消しゴムある？」と聞く。 ・鉛筆等の数を数える。	5分	・授業開始の挨拶は、徐々に本人が言うようにする。
<input type="checkbox"/> ①身の回りの物の名前が分かる T：(鉛筆を持ち) 鉛筆？消しゴム？ S：鉛筆。 T：そうです(消しゴムを持ち)。何ですか？ S：消しゴム。 ・本を見て「ほん」、ノートを見て「のおと」と知る。 ・Tの後についてSが復唱する。 ・続けて、「机」「椅子」などの名前を知る。 ・物を指さしたり、絵カードを見せたりして、何度も言うことで物の名前を少しずつ覚えられるようにする。 【活動例】 ・絵カードでカルタ取りをする。 ・本や鉛筆の一部分だけを見せて「何ですか」に答える。 ・既習の「ある」を使い、「～ある？」に答える。	15分	○文房具等の実物 ○絵カード(英語科で使うものでも可) ○「ちびむすドリル」幼児知育→文字・言葉・文カード 「ちびむすドリル英語」→絵カード ○「みえこさんのにほんご」 P 20～24 例 <input type="checkbox"/> 机 <input type="checkbox"/> 椅子 <input type="checkbox"/> 黒板 <input type="checkbox"/> 筆箱 <input type="checkbox"/> ドア <input type="checkbox"/> 窓 <input type="checkbox"/> 本 <input type="checkbox"/> ノート <input type="checkbox"/> 時計
<input type="checkbox"/> ②「何ですか」と質問する ・Tが「何ですか」に対して、「～です」と言い方を示す。 T：何ですか。 S：消しゴムです。 ・答えられなかったらTが答えを言う。テンポよく「何ですか」「～です」とたくさん答えることで、質問と答えの言い方に慣れるようにする。 ・次に立場を交換してSが質問する。 ・クイズで「何ですか」「～です」の会話をする。	13分	・「何ですか」のときに、？札を示し、合っていたら○札を上げるのもよい。？札をSに渡すことで、立場が入れ替わって質問する側だと示すこともできる。 ・物の上に布をかぶせ、触って何か答えるクイズ、シルエットを描いた絵を見て答えるクイズなどをして楽しむ。
<input type="checkbox"/> ③「分かる」「分からない」を言う ・Tは、物や既習の文字を見せSに「何ですか」と問いかける。Sが言えたらTが「分かる！」と笑顔で言い、言えなかったら「分からない」と残念そうに言うことで意味を理解できるようにする。その後、実物や絵カードを使って会話をする。 ・Sが「分からない。何ですか」と言ったら名前を教え、質問する方法であることを理解できるようにする。	10分	○『日本語学級1』 P 48、49を使い、「分かる」「分からない」の意味を理解することもできる。 ・Tから質問し、答え方に慣れたら、立場を交換してSが質問する。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する(イラストを見て言葉を言う、「何ですか」の会話をするなど)。	2分	○本時で使用した文房具や絵カードなど
メモ		